



児童 生徒 住民 1,200 人が参加
東北のボランティア体験を伝える「五日市高校防災訓練」

五日市高校は、災害時の生活避難場所になっていて、普段から防災教育に熱心に取り組んでいる。東日本大震災復興支援のボランティアに参加した経験を生かし、大規模な防災訓練を行った。高校生と住民による小学生の避難誘導や、竹筒を使った炊き出し体験など、児童、生徒、住民約1200人が参加。今回の訓練を通して、地域との信頼、絆が一層深まった。

- 内 容 土砂災害を想定した五日市高校と地域の防災訓練
 - ・ 避難誘導訓練
 - ・ サバイバル体験、炊き出し訓練、救急救命
 - ・ 防災講話、トリアージ訓練
 - ・ ドクターヘリコプターによる訓練見学 等
- 実 施 日 平成26年11月5日
- 場 所 五日市高校、観音台公民館、集会所など
(佐伯区観音台3丁目)
- 参 加 者 約 1200 人
- 実施主体 広島県立五日市高校



取組のステップ



東日本大震災復興支援ボランティアの体験を伝えたい

五日市高校は、防災教育に熱心に取り組んでおり、学校として東日本大震災復興支援を企画し、ボランティア活動のため現地に生徒を派遣している。

この体験を通して学んだ「防災・減災」の知恵を防災訓練で生かしたいと考え、小学校や自主防災会等の地域団体、消防署、警察署、区役所等と一緒に大規模な訓練を行うことになった。



地域の人と一緒に避難誘導や炊き出し体験

訓練は、土砂災害を想定して、午前9時ごろから約5時間にわたり地域の住民や小学生など約1,200人が参加した。

高校の生徒が小学校に児童を迎えに行き、生活避難場所になっている同校まで、自主防災会の人と一緒に避難誘導、住民の協力で学校内に設けた非常用の「かまどベンチ」で炊き出し体験、竹筒を使ってご飯やパンを作るなど、学校と地域が一体となって行った。災害に対する意識が高まっただけでなく、訓練を通して学校と地域の交流も深まった。



工夫していること等

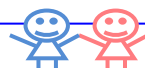
普段から防災に関心を持つように

防災の大切さを生徒に伝えるため、東北の被災地との交流を続けたり、普段から地域との連携を大事にしている。

課題・今後の展開

- 他者のために何ができるかを考え行動できる防災活動リーダーを育成するための基礎作り

みんなの声



〈住民〉

- このような訓練を通して、地域の防災意識が高まり心強い。(住民)
- いい体験ができた。いざという時は、仲間と力を併せて役に立ちたいと思った。(生徒)

〈主催者〉

- 避難所の役割を学び、被災時にできることを確認する機会となった。地域と一緒に、お互いに助け合えることのできる関係を作っていきたい。